

# 令和3年度 安楽川小学校 学校評価報告書

教育目標	人権尊重の精神を基盤に、知徳体の調和のとれた児童の育成を図る	学校名	紀の川市立安楽川小学校	校長名	原 寿宏
------	--------------------------------	-----	-------------	-----	------

目指す学校像	地域と共に歩む学校	目指す児童像	「強く、正しく、仲よく」を体現する児童	夢と希望をもち自ら進んで学習する子供、自分も友達も大切に思いやりのある子供、心身ともにたくましくねばり強く挑戦する子供
--------	-----------	--------	---------------------	---

本年度の目標	1 知:「確かな学力」の定着・向上	達成度	A	十分達成した(80%以上)	学校評価の結果と改善方策の公表方法  学校ホームページで公表 校報「絆(きずな)」で周知
	2 徳:「豊かな心」の育成 (自分も他の人も大切にしている心の育成)		B	概ね達成した(70%以上)	
	3 体:「健やかな体」の育成 (体力・運動能力の向上、運動習慣の定着)		C	あまり十分ではない(60%以上)	
	4 地域と共に歩む学校づくり(みんなで作るみんなの安小/コミュニティ・スクールの推進)		D	不十分である(60%未満)	

自己評価						学校関係者評価
重点目標				年度評価 (令和4年2月18日現在)		令和4年3月10日 実施
番号	現状と課題	評価項目	具体的な取組	評価指標	達成度	次年度への改善と その方法
1 知	これまで、国語科を中心に「聴いて、考えて、つなげる授業」づくりの成果と課題を踏まえ、論理的思考力の育成に取り組んでいるが、コロナ禍の中、昨年度の研究はあまり進んでいない。 なお、全国学調では、県サンプル調査との比較で、国語が5ポイント上回ったが、「書く能力」は県平均を上回っているものの、「話す・聞く能力」「読む能力」に比べ10ポイント以上低かった。算数は1.2ポイント下回った。また、県調査は4・5年生共に国・算で県平均を下回ったが、理科(5年)は3ポイント上回った。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①基礎基本の定着(朝学、補充学習、家庭学習等での復習の徹底) ②弱点の分析・指導方法の工夫改善 ③子供の理解に即した学習指導	①「たくさん読んだで賞」(年間20人以上) ②左記調査(保護者)「授業が楽しく分かりやすいと言っている(A)」、「習った漢字を書いたり・計算をしたらしている(B)」の4及び3評価合計が90%以上、「家庭学習の習慣を身に付けている(C)」の4及び3評価合計が80%以上 ③左記児童アンケートで、「学習」に該当する全項目(1~5)(A)の4及び3評価合計の平均が85%以上、「国語(B)・算数(C)・理科(D)の授業がよく分かる」の割合が90%以上 ①②③ 各種学力調査で全国・県平均を上回る。 ◆左記調査(教員)の「知」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	B	全国学調・県学調から、特に算数に課題があるため、基礎基本の定着に向け、指導方法の工夫改善を図る。そのため、「安小タイム」の内容充実(目的をもった課題の反復練習・答え合わせと解説)を徹底するとともに、補充学習に努める。また、家庭学習の定着を図るため、タブレット端末を有効に活用し、児童が自主的に学習していく習慣付けを行う。 加えて、引き続き、国語科を中心に、「論理的思考力」の向上をテーマに授業改善に取り組みつつ、「書く力」の向上に努める。
2 徳	各学年・学級で、自分の気持ちを相手に伝えることのできる環境づくり(間違っただとしても許し合える人間関係づくり)に取り組んでおり、相手の気持ちを考えてくれる、優しい児童が育てられているが、日々、些細なトラブルなどもある他、登校しぶり傾向にある児童も見受けられ、適時適切な指導に努めているが、その克服が課題となっている。 また、自分から進んであいさつできる児童も多いが、学校生活上のルールを守れないこともある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆児童いじめアンケート	①一人一人の気持ちに寄り添い、子供たちが仲間を大切にできる学級経営に取り組む。また、日々のトラブルに対しては、双方の言い分を丁寧に聴き、互いに納得のいく指導を行う。 ②いじめアンケートを実施する。(年3回/学期に1回) ③毎月の欠席状況を把握し、SCなどとも連携し、定期的にケース会議を開催するなどし、気になる児童への関わり方について話し合う。	①②左記児童アンケート「学校が楽しいと感じる(A)」の割合が97%以上、左記調査(保護者)「子供は学校に行くのを楽しみにしている(B)」の割合が90%以上、アンケート実施後のいじめ解消率100% ③不登校を0に近づける、不登校気味児童の欠席日数を減少させる ◆左記調査(教員)の「徳」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	B	自分の気持ちを伝えることのできる環境づくり、引き続き、学校全体で取り組んでいく。また、子供同士の些細なトラブルや喧嘩にも丁寧に対応していく。不登校気味児童への対応としては、SCなどより一層連携を密にし、家庭の協力が得ながら、登校意欲の喚起等に努める。その他、進んで挨拶できる児童が増えてきたが、できない児童もいる。また、多くの児童が、学校のきまりや社会のルールが守られていると答えているが、実態としては多少ずれがあるように見て取れる。児童会活動や委員会活動を通じ、児童の主体性な活動として、その改善に取り組んでいく。
3 体	子供たちは概ね規則正しい生活が送れているが、高学年になるほど夜遅くまで起きている傾向は例年どおり。 運動能力に関しては、全国スポーツテストでは、約半数の児童がAB層に分布し、最近3年は上昇傾向にある。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者) ◆学習と生活に関する児童アンケート	①「早寝・早起き・朝ご飯」を推奨する。(家庭と連携して基本的生活習慣の定着を図る。) ②「学習と生活に関するアンケート」を実施する。(年3回/学期に1回) ③「朝トレ」をはじめ、季節に即した取組(長距離走など)を計画的に実施するとともに、運動場での外遊びを推奨する。 ④全国スポーツテストを徹底実施する。	①②左記児童アンケート、「毎朝、7時までに起きていた(A)」の割合90%以上、「毎日、朝ご飯を食べた(B)」の割合が90%以上、「毎日、決められた時刻までに就寝した(C)」の割合が70%以上 ③左記調査(児童)「よく運動して体をきたえていた(A)」、左記調査(保護者)「学校は運動習慣の定着、体力向上に取り組んでいる(B)」の4及び3評価合計が85%以上 ④全国スポーツテストで、A層の割合が10%以上、AB層の合計割合が35%以上、DE層30%未満 ◆左記調査(教員)の「体」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	A	生活習慣に関しては、概ね良好である。 運動能力に関しては、全国スポーツテストの設定目標をクリアはしたが、昨年来、コロナ禍の影響で、市陸上大会など高学年の対外行事が中止となる中、朝の運動等も計画どおりに実施出来なかったことなども影響して、AB層が減少し、DE層が増加した。 コロナ禍ではあるが、引き続き、体育授業の充実、「朝の運動」の年間を通じての計画的な実施、外遊びの促進に努める。
4 コミュ スク	コミュニティ・スクールの理念に基づく学校づくりを目指し、「みんなで作るみんなの安小」を合い言葉に、「あら小応援団」など外部人材を積極的に活用し、教育活動の充実にも努めている。 また、児童や学校の様子を地域の方にも伝えるために、校報の手渡しを行っている。 その結果、地域の方々から児童や学校に対する気遣いの言葉をいただけるようになってきた。	下記調査の該当項目(別添参照) ◆学校評価調査(教員)及び(保護者)	①校長が毎月「校報・絆」を発行する。また、各学年ごとに毎月通信を発行する。 ②取組をマスコミを通じて広報(情報発信)する。 ③学校支援ボランティア等外部人材を活用した取組を推進する。	①左記調査(教員)「保護者や地域への情報発信は十分できている(子供の様子を積極的に伝えた)(A)」、左記調査(保護者)「地域と共に歩む学校づくりを進めている(B)」、「学校の取組や子供の様子がよく分かった(C)」の4及び3評価合計が90%以上 ②地方紙等で取組が紹介される回数(年間5回以上) ③学校支援ボランティア活用件数(年間10件以上) ◆左記調査(教員)の「コミュスク」に係る該当全項目の4及び3評価合計の平均が90%以上	A	児童の校外引率やクラブ活動への支援など「あら小応援団」の方々から心温まる協力をいただいたことなど、教育活動の充実にも努めた。【12月未現在】のべ50回319名(ゲストティーチャー含む) また、学校・家庭・地域の熟議の場として「子育て座談会」を開催し、コミュニティ・スクールの基盤ができてきた。加えて、校報を見守り隊など応援団の方々から地道に配布することを通して、地域の方々から児童や学校に関心をもっていただけたようになってきた。今後も地域資源を生かした教育活動を推進する。

◆休みがちな児童への対応には、SCなど専門家の存在が不可欠である。今後ともSC等と連携しつつ、子供への関わり方や保護者への働き掛けを工夫しながら、粘り強く対応してもらいたい。

◆「特別支援教育」分野での教員自己評価が低いようだが、どの子供に対しても、特別支援教育の視点で接することが大切。そのような視点で関わっていくと不登校も減少してくるのではないかと期待。特別支援教育を強化しようというので、特別支援教育を強化して欲しい。

◆最近の子供は打たれ弱く、失敗を極度に恐れる傾向がある。中学生になると、その先に高校入試があるように、少なからず「競争」の場面に遭遇するので、みんな一緒(平等)の教育だけでは事足りない。相対評価から絶対評価に変わり、全体の中での自分の立ち位置・順位というものに意識が向かなくなってきた。順位付けが「悪」という風潮もあるが、高学年くらいからは意識させていくことも必要ではないか。走るのが速い、絵や字が上手など、子供たちは、それぞれの得意分野で頑張ればよいし、学校には、子供たちの得意分野を伸ばしてもらいたい。

◆学力調査で平均を下回ったのは、あくまでも結果としてのこと。また、次に向け頑張らばいい。児童アンケートから、授業はもちろんのこと、学校生活の様々場面で、子供たちの満足度(達成感)が高いという結果が出ていて、点がいい。また、保護者アンケートで、「学校は・・・している」という学校が主語となっている項目で、高評価が出ているのは、学校が保護者から信頼されていることの証だと思う。